



三馬小学校

所在地：金沢市久安6丁目154番地

電話：076-243-2261

F A X：076-243-2262

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/minma-e/>

校長名：島津 健一

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童	115	104	139	126	127	134	7	752
学級数	4	3	4	4	4	4	3	26

	校長	教頭	教諭等								養護	事務	校務	他	合計	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	他						
職員数	1	1	4	3	4	4	4	4	4	3	8	1	1	1	2	41

1 平成20年度学力向上の取組内容の検証

(1) 成果

学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るために、学校研究を中心にして、学年間で共通理解を図りながら、取り組んできた。教師が、学習課題の明確化・意欲化を意識することで、児童の学習に取り組む姿勢も、以前より主体的になってきた。また、基礎学力の定着を図ることで、前年度、課題点であった事項も定着率が伸びた。国語科では、指示語、主語・述語などの言語事項、社会科では、地図の読み取り方、算数科では、四則混合計算、小数の乗除計算、理科では実験による概念形成等である。

(2) 課題

授業では、考えを書く場面や学習のまとめを書く場面を大切にしてきたが、まだ充分でないため、表現力を高める指導を改善していきたい。

2 学力等の現状分析

(1) 国語科

正答数分布グラフからみると、本校児童は、国語Aは上位層が多く、下位層は少ない分布となっている。しかし、国語Bは、中位層が多い結果となっていることから、活用問題を苦手としていることがわかる。国語科に関する意識調査からは、国語の勉強は大切で分かる、と答えながらも、好きだと思っている子の割合は、20年度より弱干、減少した。

ア 「話すこと・聞くこと」領域では、大事なことを聞き取る力は良好である。しかし、話し合いの目的や良さ等、全体を捉えて聞く力はやや弱い。

イ 「読むこと」領域では、説明文の段落内での関係を読み取る力は良好であるが、段落相互関係を読み取る力は、まだ十分ではない。

ウ 「書くこと」領域では、自分の考えを問われていることに沿いながら、的確に表現する力が充分ではない。また、与えられた条件に応じて文章を書くことにも慣れていない。

エ 「言語事項」では、主述を捉える力が昨年より向上した。今後も継続して指導していく。しかし、毛筆の校正やローマ字の正確な読み書きに関しては、指導を徹底したい。

オ 言語への興味を高めるために、朝学習では読書の他にNHKのTV視聴も行う。

(2) 社会科

ア 石川県の伝統産業や河川の位置、主な地名等の理解、産業と国土の理解はとても良好である。しかし、日本と繋がり深い国々の位置と国名は、理解がまだ十分ではない面がある。

イ 資料を読み取る力については、地図を読み取る力に定着が見られるようになった。ただ、複数の資料を関連づけながら、読み取る力の育成はこれからの課題である。

ウ 社会的事象の意味や資料から自分なりに判断し、考えを深めて書く力は十分ではない。

(3) 算数科

正答数分布グラフからみると、算数Aにおいては、上位層がとても多く、下位層が少ない分布となっている。算数Bにおいては、高から中間層にかけ、中間層がやや多いものの、大体、横並びの形状である。意識調査からは、算数が大切で内容も分かり、好きだと答えた児童が前年度よりも増加している。

- ア 「数と計算」領域では、繰り上がりのある計算、四則混合の計算等、基本的な計算力は良好である。ただ、数の構成や数直線から数を読み取る力は、まだ十分ではない。
- イ 「数量関係」の領域では、資料を分類・整理する力、割合の学習の指導を徹底したい。
- ウ 「図形」領域は、概ね良好である。今後も引き続き指導に当たりたい。
- エ 「量と測定」領域では、長さや量の感覚は良好であるが、重さの加法は十分ではない。
- オ 数学的な考え方や、資料を比較しながら、式や言葉で自分の考えを表現する力に課題が残り、今後も意図的に指導を継続していく。

(4) 理科

- ア 「物質とエネルギー」では、ものの温まり方や解け方の実験結果における概念形成に曖昧さが見られる。複数の実験方法で正確な結果を押さえていく。
- イ 「地球と宇宙」領域では、川の動きの理解が良好である。ただ、「積もらせる」等の用語の定着や月の動きの理解が十分ではない。
- ウ 「生物とその環境」では、昆虫の育ちの違いや、発芽の条件の理解がとても良好であった。
- エ 事象を関係づけて考える力、図などを使った表現力、問題文の読解力が今後の課題である。

3 学力向上の取組

(1) 国語科

- ア 説明文の学習では、段落相互の関係と育成と要旨を正しく捉える力の育成のため、児童の読みに受けながら、ねらいに向かっていく単元の展開の在り方を工夫する。
- イ 筆者の考えに対して自分の考えを確立する場を継続的に設け、限られた字数内でまとめる機会を増やす。
- ウ 接続語、指示語、主語・述語等の指導は、言語事項の取り立て学習時のみならず、他領域の学習においても、意図的に取り上げていく。漢字に関しては、新出漢字を正しく書く指導だけでなく、読み換え漢字においても留意する。
- エ 書くことの指導においては、自分の思いや考えを書くことの機会を増やし、推敲の徹底や構成の指導に力を入れ、表現力を伸ばす。

(2) 社会科

- ア 授業や朝学習タイムにおいて、地図や地球儀を活用しながら、基礎知識の徹底を図る。
- イ 社会的用語をしっかりと指導し、用語が身につくよう繰り返し指導する。
- ウ 提示の仕方を工夫し、複数の資料を用いて関連づけながら、自分の考えを書く機会を増やす。

(3) 算数科

- ア 計算は、授業の終末にできるだけ練習問題を取り入れ、その時間内での定着を図ったり、個別の理解度を確認したりする。
- イ 量感が育つように、算数的活動を取り入れた学習をし、日常生活の中でも取り入れ指導する。
- ウ 問題文の意味を正確に理解できるよう、大事な数値や問われている事に線を引くなどする。
- エ 問題解決に当たっては、数直線などを必要に応じて使いながら、自分の考えを言葉や式、図で表現する力を伸ばす。
- オ 「割合」の学習においては、単元の展開を工夫し、ミニテスト等において、繰り返し定着を図る。

(4) 理科

- ア 正確な実験結果が得られるように、事前の指導をしっかりと行う。また、複数の実験方法で正しい結果が得られるよう準備する。
- イ 理科用語を指導した後は、児童に用語を使用しながら発言したり、ふり返りを書いたりするよう繰り返し指導をする。また、教師も理科用語を正しく使って授業する。
- ウ パソコンやDVD等を使用した体験的学習を増やし、天体の学習では、日常生活での取り入れ指導を行う。
- エ 基礎的知識の定着のため、パフォーマンステストを更に行う。
- オ 理科的なものの見方・考え方を伸ばすため、事象を正確に掴んで考えを書く時間を保障する。

(5) 学習一般

- 朝学習タイムや放課後のクラスタイムにおける計画的な学習、「学びの土台」や学習規律の徹底、全学年での読書ラリー、家庭学習の内容や方法の周知・徹底を継続する。

